

---

# ジャンプ = 人生

南野彰

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ジャンプⅡ人生

### 【Nコード】

N6924B

### 【作者名】

南野彰

### 【あらすじ】

私は、必ず毎週読む。週刊のそれを、弟のだと言いながら私は、必ず毎週読む。

「お嬢さん、それはなんだい？」

優しい目をしたその紳士は、私にそう問いを投げ掛けた。

その目は年より遙かに若く見え、知らないものを大人に聞く少年の様にキラキラとしていた。

唐突なその問いに私は、えっ、と言葉を漏らして漫画です。と出来る限るの笑顔で返す。

「知っているよ」

初老の社長は面白そうに笑いながらそう答えた。

「何が載っているんだい？なんで、買うんだい？」

次々と投げ掛けてくる質問に私は迷惑だと微塵も感じず、その揶揄しているのでは決して無い、純粹な疑問に答えようと色々考える。

「少年向けの雑誌ですから、スポーツとか、冒険の話とかが多いですね」

「なんで買うんだい？」

彼は、頷きもせず足りなかった質問の答えを求める。

『何故買うのか』

考えてもなかった。

続きが気になるから？

弟に頼まれたから？

違うような気がする。

「週刊ですから、続きが気になるんでしょう。」

私が困ってるんじゃないかとハラハラしている店主のおじさんが助け船。

それでも、彼は納得していない様子だ。

「弟に頼まれたんです。私は読みません」

「弟思いの良いお姉ちゃんなんですよ」

「そんなこと、ないですけど」

そう笑いながら言って恥ずかしくなる。

私は読む。

この漫画雑誌を。

毎週欠かさずに、最低二度は。

「それじゃあ」

私は一礼して店を出た。

背中から「ありがとうございます」とおじさんの声。

部屋に戻って私は読んだ。

毎週見てる漫画を、全部二度読んだ。

「お嬢さん、君は誰だい？」

優しい目をしたその紳士は、私にそう問いを投げ掛けた。

その目は年より遙かに若く見え、知らないものを大人に聞く少年の様にキラキラとしていた。

唐突なその問いに私は、えっ、と言葉を漏らして人間です。と出来る限るの笑顔で返す。

「知っているよ」

初老の社長は面白そうに笑いながらそう答えた。

「何が載っているんだい？なんで、生きるんだい？」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6924b/>

---

ジャンプ = 人生

2010年10月20日16時34分発行